

第5回 岡山県地域公共交通ビジョン策定会議

<委員発言要旨>

日 時 令和8年2月9日（月）
10:00～11:10
場 所 岡山県庁 3階大会議室

2 議事

岡山県地域公共交通ビジョン（案）について

[事務局説明後の委員発言要旨]

（委員）

- ・ 令和8年度からビジョンを踏まえた取組がスタートすることになるが、選挙の影響で、国の新年度予算の成立が例年より遅れ、地方への予算配分も遅れると聞いている。4月以降、予定どおり取組を進めることができるのか。

（事務局）

- ・ ビジョン案については、今後、県議会等にも説明した上で、3月中の策定・公表というスケジュールを予定しており、令和8年度から取組をスタートしたいと考えている。先般、県の令和8年度予算要求を公表したが、ビジョン案の考え方を踏まえながら予算編成に取り組んできたところである。国の予算編成が遅れている状況もあるが、なるべく影響がないよう、取組を進めたいと考えている。

（委員）

- ・ 22ページのイメージ図について、文章を読まなくてもイラストだけで理解できるように工夫してほしい。将来の地域公共交通のあり方がイメージできることが大事なので、足りないところは文字を追加してほしい。

（事務局）

- ・ わかりやすい表現について検討したい。

（委員）

- ・ ビジョンは、数値目標や評価指標は設定しないものであり、数値に基づいた検証は想定されないが、ビジョンの期間として「概ね5年を目途とし、必要に応じて改訂を検討します。」との記載がある。これから労働人口は急激に減少し、外国人政策やデジタル技術なども大きく変わっていくことが予想されるが、社会情勢を踏まえた見直し・改訂を検討してもらいたい。

(事務局)

- ・ 今後の社会情勢を踏まえた見直し・改訂は必要と考えている。ビジョンは数値目標を設定していないため、それ自体の進捗の把握は難しいが、今後、ビジョンの考え方や方向性に沿って、県や市町村、交通事業者など、それぞれの主体が連携して取り組んでいくことが重要と考えており、既存の会議等も活用しながら、それぞれの主体における取組状況などを把握してまいりたい。

(委員)

- ・ 令和8年度予算にビジョンの考え方を踏まえた取組を計上しているとのことだが、予算額は増えたのか。

(事務局)

- ・ 令和8年度予算には、人材確保に向けた説明会や体験会、外国人材の活用に向けた取組など、新たな予算を計上している。また、国の交付金を活用し、交通事業者の利便性向上の取組への支援策も補正予算として計上し、来年度実施したいと考えている。
- ・ 県として、ビジョンの考え方を踏まえながら予算編成に取り組んでおり、金額だけ見ると増額となっているが、今後、着実に施策に取り組んでいくことが重要と考えている。

(委員)

- ・ 追加されたイメージ図にあるように、公共交通と社会インフラ（駅、病院、商店など）には密接な関係があるが、今後、まちづくりに関係する県のプランに、ビジョンをどう活かしていくのかということも検討してもらいたい。

(事務局)

- ・ ビジョンを策定して終わりとするのではなく、今後、県のような様々な施策に活かしてまいりたい。

(委員)

- ・ 既存の会議等を活用して、ビジョンの取組状況等を把握、共有することとのことだが、定期的な会議を県主催で開催する意向はないのか。

(事務局)

- ・ どういった手法で、ビジョンの取組状況等の把握、共有を行うのかについては、今後の検討課題と考えている。

(委員)

- ・ ビジョンの達成度等を意見交換できる場を設けるべきだと思う。

(委員)

- ・ 各市町村では、既に交通計画の策定や改訂の動きが進んでおり、ビジョンがどう市町村計画に反映されるのか、また、県がそれをどう確認するのかについて、今後検討するという状況ではないのではないか。

(事務局)

- ・ 市町村や交通事業者等、様々な主体において、ビジョンを踏まえた取組をより進めていただくことが重要と考えており、まずはビジョンの周知に取り組みたいと考えている。さらに、その取組状況を把握することも必要だが、具体的な手法については、今後、検討したいと考えており、既存の会議の活用等、効率的に進めていくことも必要ではないかと思っている。

(委員)

- ・ 今後のビジョンの進め方については、まず県民の皆様にはビジョンの中身を知ってもらうことが重要であり、会議や広報媒体などを活用し、なるべくわかりやすく、“岡山県はこのような公共交通施策を進めていく”ということを知ってもらうことが一番だと考えている。今後の進め方について、検討しているところであり、例えば、このビジョンができたことで、地域でこのような取組が始まったとか、県としてこんなことに新たに取組んだ等、確認、把握をし、共有しながら進めていきたいと思っている。

(委員)

- ・ 地域や市町村ごとに課題や状況も異なるため、ある市町村ではビジョンのこの部分が大事だが、この部分はそうでもないといったことを整理し、どう市町村計画に反映すればよいのかといった視点なども持ちながら、県として市町村と関わってもらいたい。

(委員)

- ・ ビジョンの策定により、県の公共交通に関する考え方が、文章として示されることになり、非常に大きな意味があると考えている。県内市町村の交通計画の策定や改訂の際に、これまでは国の考え方を中心として地域の現状などを分析し、方向性の確認をしてきたが、今後は、国と県の考え方を合わせながら、それぞれの市町村計画に反映することができる。
- ・ 市町村の交通計画には、様々な施策が記載されており、交通会議の場などでは、その達成状況が報告されている。この会議には、県の担当者も出席していることから、他の市町村の取組状況などを展開してもらえると、それぞれの市町村の方も参考になると考えている。

(委員)

- ・ 26ページの国に期待される役割に記載のある鉄道施設等の更新による鉄道事業の機能強化に向けた支援にも関連すると思うが、瀬戸大橋線の一部単線区間の複線化による輸送力の増強なども今後、検討してほしい。
- ・ 岡山県が交通結節点として有利な位置にあるということを踏まえ、他県や他地域との連携といった視点についても、ビジョンを改訂する際には検討してもらいたい。

(事務局)

- ・ 既に地域によっては県域を越えた取組などもあるが、引き続き、県として広い視点を持って取り組みたい。

(委員)

- 各市町村では、それぞれの交通課題に応じて創意工夫しながら取組を進めているが、そうした事例を共有する場がない。今後、このビジョンの方向性を踏まえた好事例も生まれてくると思うので、そうした事例を共有する場ができればよいのではないか。その結果として、8つの方向性の中で取組が不足している項目が明らかになれば次の課題も見えてくるのではないか。
- 22ページのイメージ図については、何となく明るい未来が感じられ、大変よいと思う。ビジョンの「目指すべき姿」の内容をイラストで表したとの説明があったが、それが伝わらないと意味がない。ビジョンを公表する際には、メッセージがきちんと伝わるようにしてほしい。

(事務局)

- 共有する場については、こういった進め方がよいのか検討したい。また、イメージ図については、よりわかりやすいものとなるよう工夫してまいりたい。

(委員)

- 図の下部分に「第4章 施策の方向性」の「目指すべき姿」と合わせて読むことを記載するなど、わかりやすい工夫が必要だ。
- ビジョンには岡山県のパーソントリップ調査のデータが使われているが、今後のビジョンの改訂時に、いつまでもこのデータを使うことはできない。継続してデータを取ることも必要ではないか。

(事務局)

- 交通課題や状況把握のためにはデータが必要であり、地域において把握しているデータや交通事業者のデータなども有効に活用しながら、取りまとめや共有など、県としての工夫ができればと考えている。

(委員)

- パーソントリップ調査と交通事業者の把握するデータの違いは、自家用車等の移動に関するデータの有無だ。交通事業者のデータは、公共交通を使った人のデータであり、広い対象からデータが取れるようなことを考えてほしい。